

類型 (理)

履修規定 (選択)

学習の目標		使用する主な教材					
1 観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理に関する基本的な原理・法則を理解させる。 2 できるだけ身近な題材を取り上げ、物理と日常生活との密接な関連性について理解させる。		・教科書『改訂版 物理基礎』 数研出版 ・『セミナー物理基礎+物理』 第一学習社 ・『物理基礎問題集』 高教研理科部会物理部門 ・『物理基礎・物理実験ノート』 高教研理科部会物理部門 ・資料プリント (補充問題)					
期	月	学習内容	学習の具体的な内容とねらい	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則	・速さ、速度、加速度について学習する。 ・落体の運動について学習する。 ・力のつり合いについて学習する。 ・運動の3法則について学習する。	◎		○	
	5	第3章 仕事と力学的エネルギー	・仕事と仕事の原理、仕事率について学習する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて学習する。 ・力学的エネルギーの保存について学習する。	◎		○	○
	6	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	・熱と温度、気体の法則について学習する。 ・電気とエネルギーについて学習する。	◎		○	○
	7	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	・波の種類、波の伝わり方について学習する。 ・波の基本的な性質 (干渉、反射、屈折、回折) について学習する。 ・音の伝わり方、音としての性質について学習する。 ・発音体の振動と共振・共鳴について学習する。	◎		○	○
	8	第4編 電気	・電気抵抗の基礎的性質について学習する。	◎		○	○
	9	第1章 物質と電気抵抗 第2章 交流と電磁波	・電磁誘導や交流、電磁波について学習する。		◎	○	○
	10 11 12	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 第3章 物理学が拓く世界	・エネルギーの移り変わりについて学習する。 ・資源と発電について学習する。 ・摩擦力やエネルギー、目に見えないものを見る技術について学習する。	◎		○	○
三 学 期	1 2 3						
評価の方法		①「関心・意欲・態度」：科学について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 ②「思考・判断・表現」：科学的な現象について考察し、導き出した考えを表現している。 ③「観察・実験の技能」：観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 ④「知識・理解」：科学的な現象について理解し、知識を身に付けている。 以上4つの観点を考慮しながら、成績は定期考査の得点に平常点 (学習態度、課題、小テスト、ノート等) を加味して100点満点で算出する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。					
備考		年度の後半は物理の授業を実施する。					